地域の特性を活かして英語教育推進フォーラムが開催

1月15日（月）、学校と地域が連携した教育活動の在り方について理解を深め、今後の英語教育などの充実を図ることを目的に「平成29年度後志管内英語教育推進フォーラム（北海道教育庁後志教育局主催）」が後志合同庁舎2階講堂において開催されました。

このフォーラムは、第1部に文部科学省初等中等教育局国際教育課課長補佐　桜井康仁氏による「グローバル化に対応した人材育成の在り方について」と題した講演が行われ、桜井氏は、小中高を通じてのコミュニケーション能力育成の必要性や、今後の学校教育における外国語教育推進に向けた取り組みなどについて、全国の事例などを踏まえながら話しました。

第2部ではパネルディスカッションが行われ、木村豊氏（寿都町教育委員会教育次長）、山野美昭氏（ニセコ町立ニセコ中学校前ＰＴＡ会長）、小林理恵子氏（倶知安農業高校教諭）とロス・フィンドレー氏（株式会社ＮＡＣ代表取締役）らが学校教育現場やＰＴＡ、地域の代表者の立場からパネリストとして参加しました。

パネルディスカッションのテーマは、「英語が話せる日本人を育成するためには」となっており、倶知安農業高校の小林氏は、同校の特色である農業を通じ、多くの外国人が訪れ暮らす倶知安町の地域特性を活かした交流活動などによる英語の実践的なコミュニケーション能力の習得について、ロス・フィンドレー氏は地域の国際化が急速に進む中で、子どもたちの進路選択における可能性を広げるため、国際バカロレア教育導入の有効性について発表しました。

フォーラムの最後に桜井氏は、英語は実技科目であり、その能力向上には地域との関わりが重要であることから、倶知安町をはじめ後志の地域特性を活かすことで、より効果的な英語教育の推進に繋がるのではと話していました。

▲パネルディスカッションで発表するロス・フィンドレー氏

子育て支援センターだより

3月の広場のお知らせ

あいあい広場（0歳）	3月	7日（水）
きらきら広場（1歳）	3月	14日（水）
のびのび広場（2・3歳）	3月	28日（水）

あいあい広場は子育て支援センターで、きらきら広場とのびのび広場は保健福祉会館での遊びとなります。

■申込／2月5日（月）9時30分～

子育て講座（ヨガ）

■日時／3月16日（金）10時～11時30分
■場所／町保健福祉会館（託児有）
■持ち物／ヨガマット（バスタオル）、飲み物（2人分）
　動きやすい服装で参加してください
■申込／2月19日（月）9時30分～

※2月8日（木）午前は講座開催のため閉館

子育て支援センター（南2東1）☎22－0419
開館時間 9時30分～12時、13時～16時
（11月～3月）
（正午～13時は玩具などの消毒のため一時閉館）
休館日　土・日曜日、祝日、年末年始

子育てサークル見学会参加者募集

わんぱくスポーツクラブ

そろそろお子さんと一緒に活動を広げたいというお母さん。わんぱくスポーツクラブに見学に来ませんか？

当サークルは1歳半から入園前までの親子が集まり、体を使った遊びや体操・季節の行事を楽しんでいます。お気軽にご連絡ください。

■見学日／2月16日（金）10時～11時30分
■場所／世代交流センター
問わんぱくスポーツクラブ
✉ wanpaku-sc@wanpaku.sakura.ne.jp
（平日9時～17時）

親子スポーツクラブ

当クラブでは、2歳～未就学のお子さんを対象に、親子で楽しめる活動を行っています。イベント、リズム遊び、読み聞かせ、手遊びなど見学会で一緒に遊びませんか？興味のある方はご連絡ください。

■見学日／2月20日（火）10時～11時30分
■場所／世代交流センター
問親子スポーツクラブ☎090-5989-2085（佐々木）
（平日9時～16時）

平成28年度倶知安町特定健診結果 積極受診で健康管理を

国民健康保険加入者の特定健診（メタボ健診）の結果【表1】が公表されました。倶知安町の受診率は、道内179市町村中105位と低く、また、全国目標値の60％にもまだまだ追いついていない状況です。

その内容を【表2】で見てみると、受診者のうち、腹囲が基準値を超えている方が男女共に前年度より増えています。また、腹囲が基準値を超えている方のうち、腹囲のみ超えている方が減り、腹囲＋高血圧の方々も男女共に増えています。

この状態を放っておくと将来メタボリックシンドロームとなる危険性が高く、生活習慣病の発症リスクがとても高くなるおそれがあります。生活習慣病は自覚症状がなく進行していくため、本人が気づかないうちに突然心臓発作や脳卒中を引き起こしてしまいます。

しかし、これらの改善には、それほど厳しい目標設定は必要ありません。まずは現体重の5％を3～6カ月かけて減量することを目標にしましょう。1カ月に1kg程度減らせば十分です。これだけで内臓脂肪は減り高血圧・高血糖・脂質異常の改善が見込まれます。

健診は、自己の身体を知り、生活習慣病予防にとって大切なものです。健診を積極的に受けてこれまでの生活を見直し、健康で生き生きとした生活を送りましょう。

問町福祉医療課保健指導係
☎22－1144

【表1】平成28年度受診結果（北海道）

	北海道	倶知安町
対象者数	866,206人	2,340人
受診者数	239,488人	774人
受診率	27.60％	33.10％
受診率順位		105位

【表2】40～74歳までのメタボリックシンドローム予備群（倶知安町の受診結果）

男性	腹囲85㌢以上		45.3％	(+2.8)
	内訳一部抜粋	腹囲のみ	3.8％	(-2.5)
		腹囲＋高血圧	12.2％	(+3.4)
女性	腹囲90㌢以上		18.1％	(+0.8)
	内訳一部抜粋	腹囲のみ	2.3％	(-1.9)
		腹囲＋高血圧	5.3％	(+2.3)

メタボリックシンドローム
内臓脂肪型肥満に高血糖・高血圧・脂質異常のうち2つ以上の症状が出ている状態のことです

医療や看護は自宅でも

けがや病気をした時は、誰でも医療機関を受診します。ひとくちに医療機関と言っても、「～病院」「～医院」「～診療所」など、いろいろな呼び方がありますが、実は法律で「病院」と「診療所」に規定されています。

病院／患者が入院できる病床が20床以上あり、医師が3人以上のほか、薬剤師1人、患者3人に対し看護師を1人配置することが必要

診療所／患者が入院できる病床が19床以下または病床を持たない小規模の医療機関で、医師が1人必要※クリニックや医院と呼ぶこともある

私たちが受けられる医療には、通院による「外来医療」や入院による「入院医療」だけでなく、病院で受けられる医療を自宅や施設などで受けられる「在宅医療」があります。

入院を必要としないけがや病気は、病院に通って、外来で診察や検査・処置を行ったり、薬を処方してもらい治療を行い、病状により集中的な検査や治療が必要なときは、入院し医療機関で治療を行います。

入院病床はその機能により、救命救急センターやＩＣＵなどで密度の高い医療を提供する「高度急性期」、病気発症時の治療や手術を行うなどの「急性期」、病状が安定しリハビリや退院に向けた準備を行う「回復期」、長期にわたり療養が必要な「慢性期」に分類され、患者の状態により医療が提供されます。

在宅医療は、病院などへの通院が難しい患者に、医師や歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士などが自宅や施設に訪問し、診療や治療・処置、服薬の管理などを行うものです。

医師や歯科医師が行う在宅医療には、「訪問診療」と「往診」があります。「訪問診療」は、あらかじめ診療計画を立てて定期的に訪問を行うのに対し、予定外の突発的な病状の変化に対して診療を行うのが「往診」です。また、主治医の指示により「訪問看護ステーション」から看護師が自宅に訪問し、健康状態の確認や医療処置、医療機器の管理、療養上の相談などを行う「訪問看護」は、家族も含めたサポートも提供しており、在宅医療や在宅での看取りなどを支える重要な役割を果たしています。

問町福祉医療課地域包括支援センター☎23－0100